

科目名		
予防歯科学		
英語名		
Preventive Dentistry		
授業形態	単位数	開講期
講義・実習	3.5	6期
担当教員	担当教員所属	
於保孝彦、山口泰平、佐藤節子、長田恵美、西山毅、 五月女さき子、非常勤（薬師寺毅、齋藤俊行）	発達育成歯科学 予防歯科学分野	
連絡先（TEL）	連絡先（MAIL）	
099-275-6180	oho@dent.kagoshima-u.ac.jp	
オフィスアワ -		
特に時間は指定せず、6F講座研究室で随時対応する。		
キーワード		
口腔機能の保持増進、疾病の予防法、公衆歯科保健活動、歯科疾患の疫学、保健医療統計および健康指標		
学習目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念および口腔と全身の健康の関連を説明できる。 2. 第一次、第二次および第三次予防を説明できる。 3. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションを説明できる。 4. セルフケアおよびプロフェッショナルケアを説明できる。 5. 唾液の性状と役割を説明できる。 6. 口腔細菌、歯垢、歯石その他の付着・沈着物についてについて説明できる。 7. 歯の硬組織の疾患および歯周疾患の病因と病態を説明できる。 8. 主な口腔疾患の予防を説明できる。 9. 主な口腔疾患のリスク評価について説明できる。 10. 動機付けと行動変容について説明できる。 11. 口腔清掃法を説明できる。 12. 食事栄養と健康の関係について説明できる。 13. 生活習慣と健康に関して説明できる。 14. フッ化物の応用方法を説明できる。 15. 予防填塞法について説明できる。 16. 各ライフステージにおける予防の重点を説明できる。 17. 公衆歯科衛生の進め方を説明できる。 18. スクリーニング検査を説明できる。 19. 口腔疾患の疫学的指標を説明できる。 20. 主な保健医療統計および健康指標を説明できる。 21. 環境による健康への影響を説明できる。 		
授業概要		
<p>歯科医療は、これまでの“治療を主体としたもの”から“予防を主体としたもの”へ推移しつつある。本科目では、様々なライフステージにおける個人の健康増進を目的として、口腔機能の保持増進および疾病の予防法について学習する。また、個人の歯科保健管理を集団へ応用する公衆歯科保健活動や歯科疾患の疫学、保健医療統計および健康指標についても学習する。さらに実習を通じて基礎的知識と臨床との関連について理解を深める。</p>		
授業計画		
第1講	予防歯科学序論	於保
第2・3講	歯科疾患の疫学	於保
第4・5講	口腔環境	於保
第6講	齲蝕の予防	於保
第7講	歯周疾患の予防	佐藤
第8講	齲蝕と歯周病のリスク診断	於保
第9・10講	プラークコントロール	於保
第11・12講	フッ化物と齲蝕予防	於保
第13講	予防填塞	長田
第14・15講	食事栄養と健康/代用甘味料	於保

第16講	動機づけと行動変容	於保
第17講	医療面接とコミュニケーション	長田
第18講	公衆歯科衛生	於保
第19・20講	歯科診査、歯科疾患の数量化	於保
第21・22講	演習：歯科医学統計	於保
第23・24講	地域歯科保健活動	山口
第25・26講	ライフステージに応じた歯科保健管理	於保
第27・28講	『特別講義』臨床予防歯科の基礎	薬師寺
第29・30講	『特別講義』歯周病と全身疾患	齋藤
第31・32講	実習：口腔内診査	西山
第33・34講	実習：フィッシャーシーラント	五月女
第35・36講	実習：唾液の役割/フッ素定量	佐藤・長田
第37・38講	実習：食品の齶蝕誘発能	山口
第39・40講	実習：衛生（照度、温熱環境）	西山
第41・42講	実習：衛生（空気成分、騒音、疲労）	長田
第43・44講	総括	於保

予習・復習へのアドバイス

第1講では講義全体のテーマを概説し、講義の進め方、評価方法について解説する。
 毎回の授業にあたっては、講義テーマに該当する内容を教科書にて予習しておくこと。
 授業では、毎回、その回の内容をまとめたプリントを配付するので、必要事項を適宜プリントに記入し、授業内容の理解に努めること。このプリントと教科書を活用して、よく復習すること。

教科書

米満正美ほか編、新予防歯科学、医歯薬出版

参考書

- ・末高武彦ほか編、新口腔保健学、医歯薬出版
- ・宮武光吉ほか編、衛生学・公衆衛生学、医歯薬出版
- ・予防歯科臨床教育協議会編、実践予防歯科、医歯薬出版
- ・予防歯科臨床教育協議会編、予防歯科実践ハンドブック、医歯薬出版
- ・日本口腔衛生学会編、2007年度版 歯科衛生の動向、医歯薬出版
- ・奥田克爾編、デンタルバイオフィルム 恐怖のキラー軍団とのバトル、医歯薬出版

成績の評価基準

講義・実習内容に関する筆記試験（75点満点）と実習レポート（25点満点）の成績に出席状況、授業参加態度を加味して総合的に判定する。

その他

授業計画は講師の都合により変更をすることがある。